

郷土撰津

いにしえ通信

平成十年六月一日

第二号

発行

撰津市三島一丁目一番一号
撰津市教育委員会
生涯学習部 生涯学習課

報告

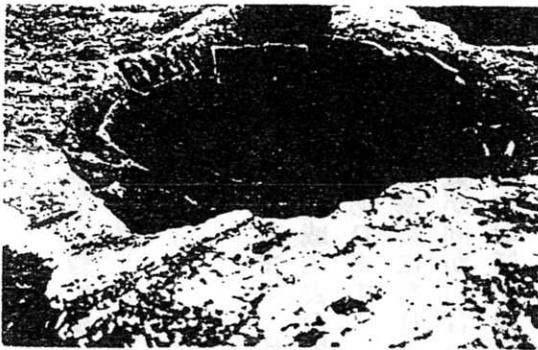
平成九年度の
発掘調査

○平成九年度に市内で実施された発掘調査について報告は次のとおりです。

調査件数	27	件
遺跡内	6	件
遺跡外	21	件
立会	16	件
公共工事	2	件

○詳細については、市役所本館一階ロビーにて展示・解説しています。

○近々調査結果をまとめた埋蔵文化財年報を刊行予定です。



◆ 千里丘三丁目・調査風景

お知らせ

○大阪府下において開催される展示・講演会・シンポジウムなどをいち早く、お知らせします。

近つ飛鳥工房

人とかたち 過去・未来

平成十年六月十四日まで

場 所

大阪府立近つ飛鳥博物館

開館時間

午前十時から午後五時

休館日

毎週月曜日

〔祝日の場合は翌日〕

入館料

おとな 六〇〇円

高校・大学生 四〇〇円

中学生以下・六五歳以上の方は無料

☎〇七二一一九三一八三二一

(南河内郡河南町大字東山29

9番地)

鯉紋の祈り。弥生の心 森の神から稲作の神へ

平成十年六月二十八日まで

場 所

大阪府立弥生文化博物館

開館時間

午前十時から午後五時

休館日

毎週月曜日

入館料

おとな 六〇〇円

高校・大学生 四〇〇円

中学生以下・六五歳以上の方は無料

☎〇七二五―四六一―六二

(和泉市池上町四四三)

埋蔵文化財の取扱いとお願い
撰津市では市内で実施される土木工事等に対し事前に試験調査・立会等のご協力を求めています。詳しくは生涯学習課までお問い合わせ下さい。

おじいさん・おばあさんに聞きました
 摂津市域 やりよつと費のくらし
 その2 「結婚式とお葬式」 (大正から昭和前半のころ)

結婚式



恋愛結婚はドレイイと呼ばれて、ほとんどありませんでした。仲人を入れた見合い結婚です。

今のように式場ではなく、新郎の実家で式をしました。式はたいてい夜です。村中みんなが(特に女性)見に行きました。開け放っていることが多く、よく見えました。友人や上司などは呼びません。親戚の者だけが集まります。まず、別室に新郎新婦が入って、「三九度」の儀式をします。次に、親戚の居並ぶ座

敷での式になります。仲人さんの挨拶、親戚代表の挨拶、親の挨拶があります。

それから披露宴になります。両家の親戚が向かい合い、めいめいの前にお膳が並びます。親戚どうしがこれから親しくなれるように、杯をさし合います。

戦争が始まるころまでは、お嫁さんは人力車に乗ってききました。それより前はカゴだったようです。嫁入りの荷物の多さは、その家の株(格のようなもの)によって「一荷」「三荷」「七荷」などと決まっていました。運び込まれた荷物は、飾って近所の人に見てもらいます。たいていは、同じ株どうしで結婚します。

新婚旅行などしません。
 ・「三日帰り」といって、三日目に二人で嫁さんの実家へ帰って、婿さんが嫁さんの親戚に挨拶しました。

お葬式

(摂津市域では、たいてい浄土真宗の方式でした。)



葬式のいつさいは、同行(ドウギョウ) 近隣に住む浄土真宗の信者のグループ)が取り仕切ります。当家の人は口出しできません。

まず、どれくらい葬式にするかの相談をします。それから、手分けして親戚に報せに走ります。同行などが湯灌(死者の体をお湯で洗う)をし、髪を剃り落として、お寺さんに枕経を

あげてもらいます。

その日は親戚だけのお通夜、あくる日は一般のお通夜、葬式はたいてい三日目です。

葬式は野辺送りです。村のお墓にある火屋(ヒヤ火葬場)まで行列するのです。火屋は以前は各村(いわゆるジゲ、明治二十二年までの旧村)ごとにありました。

野辺送りの先頭は案内人、その両側でケゴビキといって竹の先を割ったのを引きずります。次に坊さん(ドウシ)という傘持ちと椅子持ちが付くです。その後に、親戚の子どもたちが提灯を持って続きます。お棺(戦前は丸い樽のような座棺)を乗せた棺台は、親戚の者が担ぎます。親戚の行列に続いて、一般の行列になります。

火屋に着くと、読経と焼香になります。お供後にはキャラムルなどが配られます。以前は、火屋でお棺を焼くのも同行の仕事でした。

郷土史コーナー

地形の変遷

摂津市を中心とした大阪平野の地形の発達課程を約二万年前からたどってみます。

【約二万年前(ウルム氷期)】

洪積世に世界的に発達した氷河期の最後のウルム氷期最盛期で、寒冷化にともなう氷結により、海退現象が起こり、海面は現在より約百メートル低くなり、現在の大阪湾はすべて陸になりました。古淀川が古武庫川・古大和川を集めて大阪湾地域を西南流し、大阪湾中央で古明石川を合流し、山良瀬戸を通過して紀伊水道にて海に注ぐ古大阪川水系が発達しました。紀伊水道のはるか沖合に当時の海岸線が形成していました。

【縄文時代】

約九千年前、気候が温暖化

にするにつれて、海面が上昇し、現在より約二十メートル低い位置となりました。大阪湾は再び海水に覆われることになりました。しかし、淀川低地・河内低地には海水はまだ侵入しておりません。大阪駅辺りを海岸線とする古河内平野(淀川低地を含む)を形成しました。

約六千年前、(河内湾Ⅰ)

さらに気候が温暖化になり、急激な海面上昇(縄文海進)が起こって、現在の海面より一メートルから二メートルくらい高くなり、古河内平野に海水が侵入しました。摂津市域はほとんど海水面下に没し、千里丘付近が海岸線を形成しました。

約五千年前(河内湾Ⅱ)

市域の大部分は淀川の沖積作用によって陸化が進み、淀川は大道・江口付近に形成され

た砂州のため右折して、安威川に合流する流路と、左折して現在の淀川筋を通る流路に分流してしまいました。

約三千年前(河内潟)

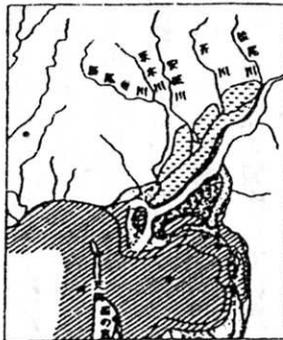
海水準の低下によって、上町台地から北へのびた砂州と、成長してきた淀川の三角州とによって海水の侵入口が妨げることになり河内湾の淡水化が進行しました。この頃、市域のほとんどが乾期に草原となり、雨期に一面の水域と化する湿原を形成しました。

【弥生時代】

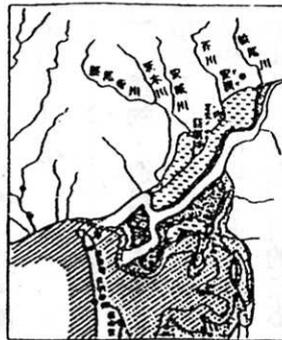
約千八百年前(河内湖Ⅰ)

天満・長柄から北へのびる砂州が発達して河内平野側への海水を防ぎ、完全な淡水湖に移行しました。淡水域は、淀川・古川・寝屋川・大和川などの三角州によって埋められて狭くなりました。

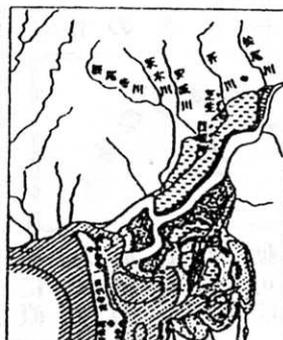
※河内湖はその後ひき続いて埋積作用が進みました。十八世紀初頭の大和川付替えまでその名残をとどめました。



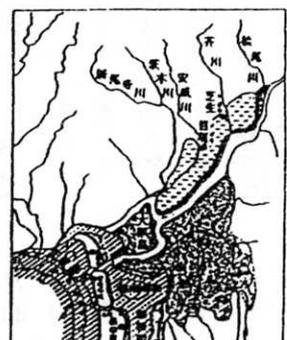
A 河内湾の時代(5000年前頃)



B 河内湾の時代(3000年前頃)



C 河内湖Ⅰの時代(3世紀頃)



D 河内湖Ⅱの時代(5世紀頃)

※摂津市史、摂津市史別巻・松籟社「淀川」より

担当 (茗荷)

考古雑話

第 2 回

わかりつつある縄文時代の生活②

三内丸山遺跡の発掘と縄文時代の生活

縄文時代は、土器の出現をもつて始まると考えられていますが、その土器の出現・発展・展開については諸説があります。現在は土器の形の変遷などから一般的に六期に時期区分することが通説となっています

縄文時代の始まりを草創期（約一万三千年から一万年前）としてその後、前期・中期・後期・晩期と展開していく事になります。

この時代にはエジプトやメソポタミア、インド、中国では高度な文明が栄えます。世界中で様々な民族が移動し都市国家をつくるなど栄枯盛衰があつたことでしょう。

そうした中、極東の島国日本列島では、非常に長期にわたり安定した文化が栄えています。それが縄文時代の

文化です。しかしこの長期にわたる安定を文化の停滞と考

えて文化的に足踏みしていたのだと論ずる研究者もいました。また、縄文時代の文化は日本独自で世界からある種、孤立していたという見解もありました。

しかし、近年極東各地で縄文式土器に類似した最古級の土器の発見があいつぎ北方起源説も考えられています。



淀川出土の縄文式土器（長野市史より）

◎ただいま市役所本館一階口ビーにおきまして平成九年度の発掘調査の成果展を開催しています。これより数回にわたり今回の展示の見所を解説します。

蜂前寺跡一次調査①

蜂前寺跡は千里丘三丁目に所在しています。今回の発掘調査により溝や土坑（どこう）

展示解説

◎短期集中連載

大地に刻まれた歴史

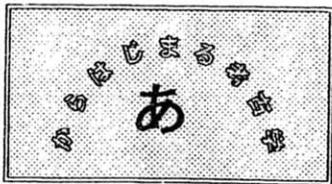
など古墳時代から江戸時代にいたる生活の跡が見つかりました。その中でも須恵器（すえき）と言われる古墳時代の土器を棺として転用していた状況が確認できたことは大き

な成果の一つです。比較的大型の甕（かめ）を横たえて使用して使いました。甕を棺として使用するのは弥生時代に北部九州でよく見られる墓制の一つで古墳時代の近畿地方では類例が少ない状況です。

このような状況から、千里丘陵で須恵器を製作していた工人（こうじん）の墓の可能性があります。

【い】 遺物・遺構・遺跡

○人類の手によって形作られた道具や装飾品のことを遺物といえます。また、目的に応じて大地に直接形作られた痕跡の遺構とす○遺物は移動可能な普通きない移動でものです。そして、遺物や遺構が残される人類の活動の土台となる場所があつたはずで、それが遺跡です。



地に直
られた
痕跡の
遺構と
す○遺
物は移
動可能
は普通
きない
移動で
ものです。
そして、
遺物や遺
構が残さ
れる人類
の活動の
土台とな
る場所が
あつたは
ずです。

担当 (伊部)